

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

25年の牛肉輸出量は前年比でかなり大きく減少、輸入量は大幅に増加

26年 1 月の牛総飼養頭数は前年比 0.4%減

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) によると、2026年1月1日時点の牛総飼養頭数は8615万5000頭（前年比0.4%減）とわずかに減少し、7年連続で前年を下回った（表1）。繁殖用雌牛（肉用牛）

は前年比1.0%減となった一方で、未経産牛（肉用繁殖後継牛）は同0.9%増とわずかに増加した。なお、未経産牛（肉用繁殖後継牛）の増加は17年以降9年ぶりとなる。USDAによると、繁殖用雌牛（肉用牛）が増加に転じるためには、未経産牛（肉用繁殖後継牛）が2～3年間継続的に増加することが必要となることが多いとされている。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

(単位：万頭)

区分	2025年	26年	前年比 (増減率)	(参考)
				25/24年比 (増減率)
総飼養頭数	8,647.2	8,615.5	▲0.4%	▲0.8%
繁殖雌牛	3,727.3	3,717.6	▲0.3%	▲0.2%
肉用牛	2,789.2	2,760.7	▲1.0%	▲0.4%
乳用牛	938.1	956.8	2.0%	0.4%
未経産牛 ※1	1,813.0	1,801.7	▲0.6%	▲1.0%
肉用繁殖後継牛	467.3	471.4	0.9%	▲1.0%
乳用繁殖後継牛	391.5	390.5	▲0.3%	▲0.9%
その他	954.2	939.8	▲1.5%	▲1.1%
去勢牛 ※1	1,569.7	1,560.1	▲0.6%	▲1.6%
種雄牛 ※1	200.9	201.5	0.3%	▲1.1%
子牛 ※2	1,336.3	1,334.7	▲0.1%	▲0.9%

資料：USDA [Cattle]

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。

注2：各年1月1日現在。

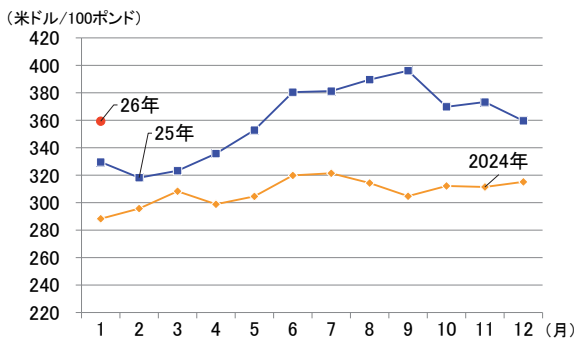
2025年の牛肉生産量は、1179万4000トン（同3.6%減）とやや減少した。26年1月の牛肉生産量は、米国全土における悪天候の影響もあり96万1000トン（前年同月比10.6%減）とかなりの程度減少した。26年の牛肉生産量についてUSDAは、牛総飼養

頭数が減少する一方で、肥育牛の出荷頭数の増加や枝肉重量の増加が見込まれるとして、前月予測から8万4000トン上方修正した1175万7000トン（前年比0.3%減）と予測している。

26年1月の牛肉卸売価格は前年をかなりの程度上回って推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）の公表情報によると、2026年1月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注1)）は、100ポンド当たり359.4米ドル（1キログラム当たり1242円：1米ドル＝156.81円^(注2)、前年同月比9.0%高）と前年同月をかなりの程度上回った（図）。また、肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、同235.8米ドル（同815円、同15.5%高）と前年同月をかなり大きく上回った。

図 牛肉卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]
 注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。
 注2：チョイス級、600～900ポンド。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

25年の牛肉輸出量は前年比14.3%減、輸入量は18.0%増

USDA/ERSによると、2025年12月の牛肉輸出量は、牛肉生産量の減少、価格の上昇、米ドル高などが継続していることから9万3962トン（前年同月比20.1%減）と大幅に減少した（表2）。輸出先別に見ると、中国向けについては、中国海関総署（GACC）による更新期限を迎えた米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新が行われていないことにより^(注3)、945トン（同95.0%減）と同国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にある。これにより25年の牛肉輸出量は116万8756トン（前年比14.3%減）とかなり大きく減少した。

また、25年の牛肉輸入量については、国内における牛肉の需要が堅調であり、特にひき肉用に利用される赤身率の高い牛肉の需要が高いことから豪州、ブラジル、ウルグアイ、メキシコなどからの輸入が増加し、248万

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年12月	25年12月	前年同月比(増減率)	輸出割合	25年	
					25年	前年比(増減率)
韓国	27,629	25,402	▲8.1%	27.0%	284,476	▲0.4%
日本	22,371	19,222	▲14.1%	20.5%	275,923	▲5.2%
メキシコ	14,369	11,674	▲18.8%	12.4%	135,100	▲13.1%
カナダ	9,553	8,453	▲11.5%	9.0%	106,425	▲8.5%
台湾	8,421	7,888	▲6.3%	8.4%	78,700	▲10.5%
中国	18,886	945	▲95.0%	1.0%	70,047	▲67.5%
香港	3,424	6,329	84.8%	6.7%	51,485	30.3%
フィリピン	1,727	1,046	▲39.4%	1.1%	20,928	▲1.8%
その他	11,183	13,002	16.3%	13.8%	145,673	▲4.1%
合計	117,564	93,962	▲20.1%	100.0%	1,168,756	▲14.3%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

1392トン（前年比18.0%増）と大幅に増加した（表3）。

（注3）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

表3 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	25年	
					25年	前年比 (増減率)
豪州	59,695	81,257	36.1%	38.9%	639,987	26.5%
カナダ	40,007	37,956	▲5.1%	18.2%	459,406	▲0.0%
ブラジル	15,236	8,958	▲41.2%	4.3%	422,406	34.8%
メキシコ	22,975	31,696	38.0%	15.2%	322,183	19.0%
ニュージーランド	18,403	11,968	▲35.0%	5.7%	244,710	▲3.5%
ウルグアイ	11,920	18,424	54.6%	8.8%	169,807	20.9%
ニカラグア	4,990	8,543	71.2%	4.1%	89,238	27.2%
アルゼンチン	4,095	6,584	60.8%	3.1%	58,159	29.6%
パラグアイ	1,902	472	▲75.2%	0.2%	47,376	126.5%
その他	2,145	3,230	50.6%	1.5%	28,120	20.1%
合計	181,370	209,088	15.3%	100.0%	2,481,392	18.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部）

豪州

成牛と畜頭数は異例の高水準で推移、牛肉業界は売り手市場に

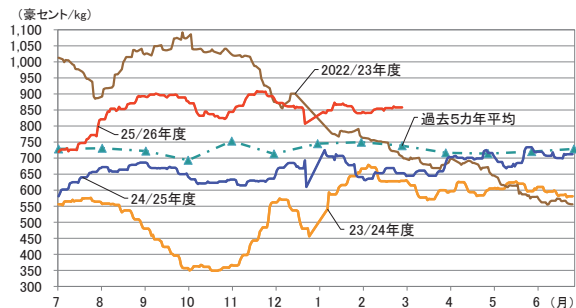
26年2月の若齢牛価格、高水準で安定して継続

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2026年3月1日時点で1キログラム当たり858豪セント（966円：1豪ドル＝112.59円^{（注1）}）と高値で安定して推移している（図1）。

MLAによると、この値動きは豪州北部地域を横断した広範囲の豪雨による一部競売場閉鎖で出荷頭数が減少したことに加え、牧草の生育状況が回復し、若齢牛の肥育需要が高まったことが要因とされている。この降雨は、1月が例年より乾燥していた多くの地域に

とって恵みの雨であり、今後は牧草利用のため保留される牛群が増えることで出荷頭数が減少し、牛の価格は上昇していくと予測さ

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA [National Livestock Reporting Service]

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

れている。

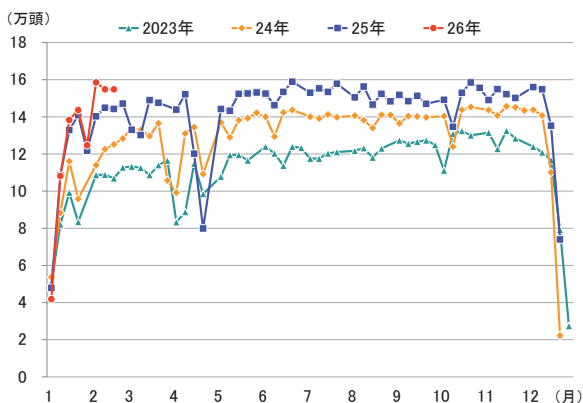
(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

26年2月成牛と畜頭数、干ばつ期に匹敵する高水準で推移

2026年2月第1週の成牛と畜頭数は、15万8528頭（前年同期比13%増）と、この時期としては異例の高水準で推移している（図2）。現地アナリストによると、1）食肉加工処理業者が高品質な穀物肥育牛1頭当たり200豪ドル（2万2518円）という良好な利幅を達成していること、2）1月の気象が高温乾燥だったことで牛の出荷が増えたこと、3）中国の新たなセーフガード措置（注2）を踏まえた駆け込み需要から、中国向けの穀物肥育牛の処理が前倒しで行われていること—などが背景にあるとされている。

(注2) 詳細については、海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html）をご参照ください。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



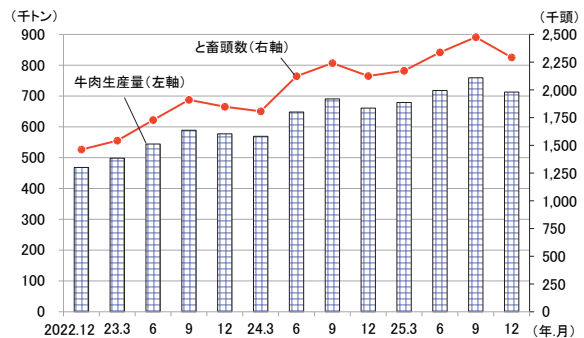
資料：MLA [National Livestock Reporting Service]

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

なお、豪州統計局（ABS）が2026年2月に公表した統計によると、25年10～12月期の牛と畜頭数は229万頭（前年同期比7.9%増）、牛肉生産量は71万2888トン（同7.9%増）と、いずれもかなりの程度増加した（図3）。この結果、25年の豪州における牛肉生産量は286万9097トン（前年比11.7%増）となり、同年の輸出量（同15.0%増の154万5760トン）とともに過去最高を記録した。

図3 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS

注1：四半期ごとの数値。

注2：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

2026年牛肉輸出量は好調な滑り出し、新たな市場開拓は中東を念頭

豪州農林水産省（DAFF）によると、2026年1月の牛肉輸出量は8万4343トン（前年同月比4.1%増）となり、1月としては過去最高を記録した（表）。

輸出先別に見ると、米国向けは2万3748トン（前年同月比3.8%減）とやや減少しているものの、米国向け加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉用）価格が記録的な高水準を維持していることから、底堅い需要は続いているとみられている。今後の見通しについてMLAや現地報道によると、米国での本格的な牛群再構築の兆候はまだ見られず、

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 1月	26年 1月	前年同月比 (増減率)
米国	24,685	23,748	▲3.8%
中国	14,908	16,636	11.6%
日本	15,806	14,563	▲7.9%
韓国	10,596	13,100	23.6%
東南アジア	6,208	5,874	▲5.4%
中東	2,327	2,378	2.2%
EU	1,060	1,462	37.9%
その他	5,459	6,582	20.6%
輸出量合計	81,049	84,343	4.1%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

米国政府が米国時間2月20日に発令した新たな関税措置は牛肉が適用外となっていることは、明るい材料であるとしている。一方、米国政府がアルゼンチン産牛肉の関税割当を2万トンから10万トンに拡大したことは、豪州の米国向け主要輸出品目である加工用牛肉と競合することから、その影響が懸念されている。

また、中国向けは、1万6636トン（前同月比11.6%増）とかなり大きく増加した。新たなセーフガード措置を踏まえた駆け込み需要が注目されたが、急増にまでは至らなかった。業界が割当超過を見越した新たな市場開拓の必要性を認識する中、現地報道は、ドバイで行われた国際フードショーにおいて、

中東における穀物肥育牛肉の適性が高いと評価されたことから、中東が新たな成長市場として注目されているとしている。

加えて、韓国向けは、1万3100トン（前年同月比23.6%増）と大幅に増加した。この背景には、米国の生産制約による韓国への供給量減少に加え、年が明けて26年となり韓国の牛肉セーフガード枠^(注3)がリセットされたことがあるとされている。

(注3) 詳細については、「韓豪FTAは2014年内に発効予定、豪州牛肉産業に恩恵」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001150.html)をご参照ください。

(調査情報部)

アルゼンチン

25年の牛肉生産量および牛肉輸出量は、いずれも減少

25年の牛肉生産量は前年比1.1%減

アルゼンチン経済省によると、2025年の牛と畜頭数は1358万8000頭（前年比2.5%減）、牛肉生産量は314万4000トン（同1.1%減）と、いずれも前年をわずかに下回った（図1）。

米国農務省（USDA）は、26年の牛肉生産量はほぼ横ばいで推移すると見通す一方で、平均枝肉重量はやや増加すると見込んでいる。USDAなどの資料によると、1）20～30年前のアルゼンチンでは、牧草肥育された高齢の牛肉の品質が不安定であったため、消費者はより若く柔らかい牛肉を好むようになったこと、2）不安定な国内経済情勢から生産者が早期の資金回収を好んだこと一が、と畜の早期化の要因としている。そのため、現地の食肉加工業界の生産体制も、若齢

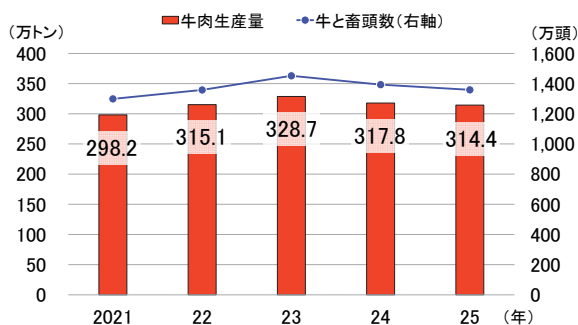
の枝肉処理に対応できるよう整備されてきた。なお、24年時点での平均枝肉重量は228キログラムと、米国の382キログラムを大幅に下回っている。しかしながら、近年は輸出向けの牛肉価格が上昇していることを受け、食肉加工業者は輸出市場が求めるような枝肉重量が重い牛にプレミアム価格を設定していることから、生産者の肥育傾向にも影響が表れると見込んでいる。

25年の牛肉輸出量は前年比8.4%減

2025年の牛肉輸出量は69万7264トン（前年比8.4%減）と、前年をかなりの程度下回った（表）。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは49万7717トン（同13.0%減）と前年をかなり大きく下回った。USDAによると、中国向けの多くは、高齢経産牛の加工用冷凍ブロック肉およびすね肉であり、ロースなどの比較的高価な部位はほとんど輸出されていない。また、25年の中国向けが減少した一因として、中国向けと同様の部位がイスラエルや米国へ大量に輸出されたことを挙げている。なお、19年以降、輸出量全体に占める中国向けの割合は7割台半ば～8割で推移しているが、直近は2年連続で減少しており、25年は71.4%となった。

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：アルゼンチン経済省
注：枝肉重量ベース。

表 牛肉輸出量および輸出額

国名	2024年			25年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	572,186	1,595,524	2.79	497,717	1,891,213	3.80	▲13.0%	18.5%	36.3%
イスラエル	44,281	272,692	6.16	50,983	430,675	8.45	15.1%	57.9%	37.2%
米国	34,976	195,030	5.58	44,279	341,576	7.71	26.6%	75.1%	38.3%
ドイツ	24,741	259,697	10.50	25,657	334,675	13.04	3.7%	28.9%	24.3%
オランダ	16,605	169,108	10.18	24,777	288,054	11.63	49.2%	70.3%	14.2%
チリ	24,193	164,083	6.78	20,863	169,181	8.11	▲13.8%	3.1%	19.6%
カナダ	5,270	21,013	3.99	6,631	34,521	5.21	25.8%	64.3%	30.6%
イタリア	7,366	69,319	9.41	6,364	74,923	11.77	▲13.6%	8.1%	25.1%
ブラジル	6,856	69,692	10.17	5,791	65,090	11.24	▲15.5%	▲6.6%	10.6%
その他	24,347	161,018	6.61	14,201	141,935	9.99	▲41.7%	▲11.9%	51.1%
合計	760,821	2,977,176	3.91	697,264	3,771,842	5.41	▲8.4%	26.7%	38.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

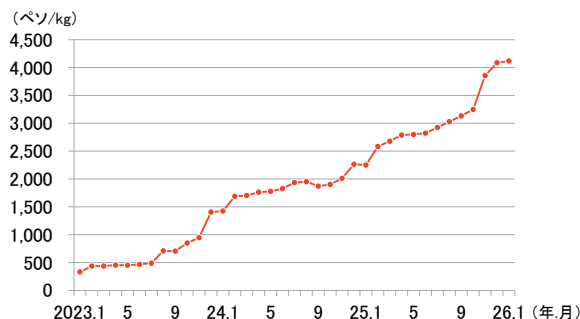
注2：HSコード0201、0202の合計。

26年1月の肥育牛（去勢）出荷価格は前年同月比83.1%高

アルゼンチンの肉用牛相対取引の指標となるアグロガナデロ家畜市場の2026年1月の肥育牛（去勢）出荷価格は、1キログラム当たり4117.70ペソ（453円：1ペソ＝0.11円^{（注）}、前年同月比83.1%高）となり、前年同月と比較して約2倍の価格で推移している（図2）。現地のコンサルタントによると、近年続いていた干ばつの影響が緩和したことで肉用牛生産者による牛の保留傾向が強まっていることに加え、堅調な外需が牛肉価格を押し上げているという。また、USDAは、肥育牛の出荷価格の上昇を受け、以前作物栽培に転向した生産者の一部が肉用牛生産者として復帰しているとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン経済省

注：アグロガナデロ家畜市場における肥育牛（去勢）生体1キログラム当たりの価格。

（調査情報部）

豚肉

米 国

25年12月の豚肉輸出量、中国向けの減少などから前年同月比6.8%減

26年1月の豚肉生産量、前年同月比2.1%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年1月の豚と畜頭数は、と畜場の営業日数が前年同月比で1日少なかったことにより、1115万400頭（前年同月比2.8%減）と前年同月をわずかに下回った。平均枝肉重量は増加したものの、と畜頭数の減少から同月の豚肉生産量は111万1000トン（同2.1%減）とわずかに減少した（図1）。

26年の豚肉生産量についてUSDAは、平均枝肉重量の増加に加え、1腹当たり産子数の増加により今後のと畜頭数増加が見込まれるとして、1282万5000トン（前年比2.5%増）とわずかな増加を予測している。

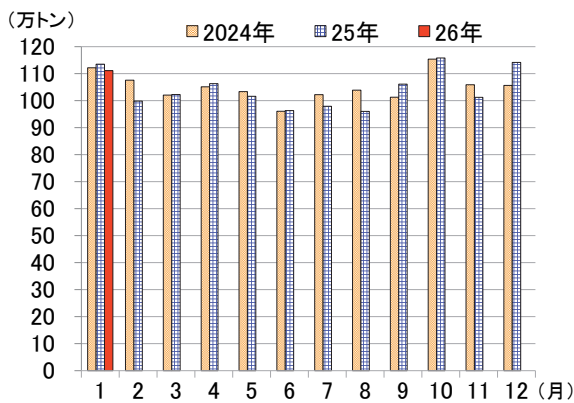
26年1月の豚肉卸売価格、前年同月比2.8%高

USDA/NASSによると、2026年1月の肥育豚価格は、100ポンド当たり61.5米ドル（1キログラム当たり213円：1米ドル＝156.81円^{（注1）}、前年同月比3.6%高）と前年同月をやや上回った（図2）。同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注2）}）は、豚肉生産量の減少や堅調な国内需要から、同93.6米ドル（同324円、同2.8%高）と前年同月をわずかに上回った。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

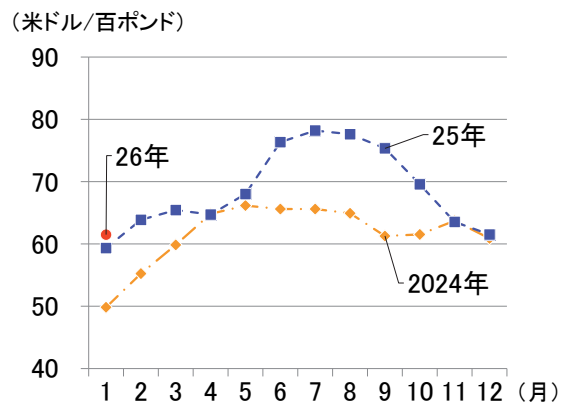
（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図1 豚肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

図2 肥育豚価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注：2025年3月までは、平均的な枝肉（赤身率51～52%、背脂肪厚0.80～0.90インチ）が生産される肥育豚の推定取引価格。同年4月以降は統計の変更に伴い、生産者平均価格。

25年12月の豚肉輸出量、前年同月比6.8%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年12月の豚肉輸出量は27万3413トン（前年同月比6.8%減）とかなりの程度減少した（表）。同年1～12月の累計では、316万1658トン（前年比2.2%減）とわずかに減少した。

12月の輸出量について、最大の輸出先となるメキシコ向けは、旺盛な需要から12万1219トン（前年同月比7.5%増）とかなり

の程度、韓国向けは2万6828トン（同1.8%増）とわずかに、いずれも増加した。一方、日本向けは3万3594トン（同1.2%減）とわずかに減少した。中国向けは、米国産豚肉に追加関税が課されていることにより、同51.4%減と大幅に減少した。

26年の豚肉輸出量についてUSDAは、国内生産量の増加や米国産豚肉の国際的な競争力の維持に加え、国際市場における欧州産豚肉の供給減が見込まれるとして、323万6000トン（前年比2.2%増）とわずかな増加を見込んでいる。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年	
					前年比 (増減率)	
メキシコ	112,793	121,219	7.5%	44.3%	1,279,942	6.1%
日本	34,002	33,594	▲1.2%	12.3%	435,537	▲8.9%
韓国	26,360	26,828	1.8%	9.8%	294,595	▲2.2%
カナダ	20,640	18,534	▲10.2%	6.8%	213,829	▲12.4%
ドミニカ共和国	9,074	12,778	40.8%	4.7%	124,357	▲0.0%
コロンビア	14,333	11,713	▲18.3%	4.3%	162,304	▲2.6%
中国	21,196	10,311	▲51.4%	3.8%	155,665	▲25.9%
豪州	12,428	7,477	▲39.8%	2.7%	101,030	▲17.5%
その他	42,630	30,959	▲27.4%	11.3%	394,399	4.4%
合計	293,455	273,413	▲6.8%	100.0%	3,161,658	▲2.2%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部）

E U

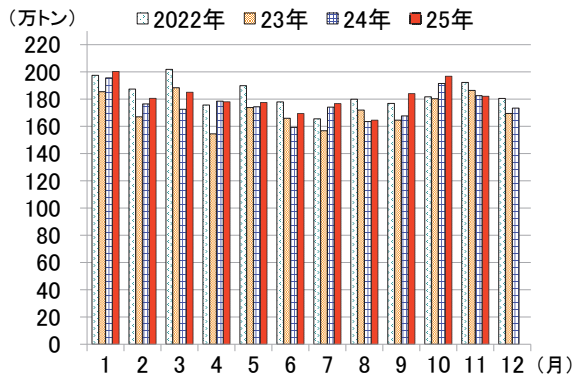
26年1月の豚枝肉卸売価格、前年同月をかなり大きく下回る

25年11月の豚肉生産量、前年同月比0.2%減

欧州委員会によると、2025年11月の豚肉生産量（EU27カ国）は182万1000トン

（前年同月比0.2%減）となり、前年同月並みであった（図1、表1）。豚と畜頭数は1899万頭（同0.2%減）、1頭当たりの枝肉重量は95.92キログラム（同0.0%増）と、いずれも前年同月並みとなった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：直近月は速報値。
 注2：枝肉重量ベース。

主要生産国のうちスペインは、同年第2～3四半期（4～9月）に域内からの生体豚の輸入頭数を増加（前年同期比60%増）させ、その結果、11月の豚肉生産量が増加（前年同月比2.6%増）した。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：万トン)

国名	2024年 11月	25年 11月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	44.0	45.2	2.6%	482.9	6.2%
ドイツ	38.5	36.9	▲4.1%	398.1	0.8%
フランス	16.5	16.4	▲0.4%	191.7	▲0.1%
ポーランド	16.8	16.6	▲1.2%	181.7	4.7%
オランダ	11.1	11.3	1.3%	129.9	1.7%
デンマーク	12.1	11.7	▲3.0%	125.4	2.0%
イタリア	10.0	10.4	4.8%	118.9	4.5%
その他	33.6	33.6	0.1%	366.6	2.9%
合計	182.5	182.1	▲0.2%	1,995.2	3.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」
 注：枝肉重量ベース。

供給増加などで、26年1月の豚枝肉卸売価格低下

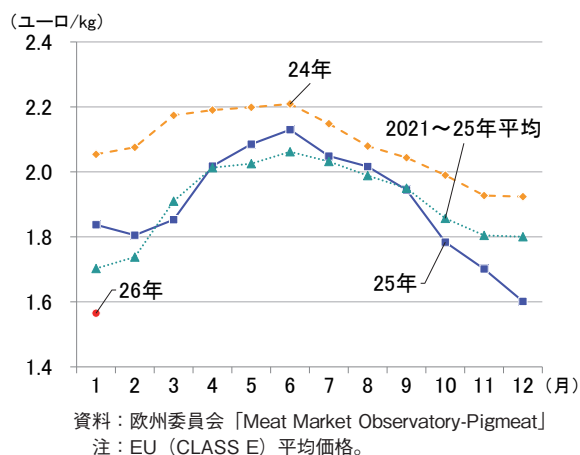
欧州委員会によると、2026年1月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.57ユーロ（291円：1ユーロ＝185.32円^(注1)、前年同月比14.8%安）と、前年をかなり大きく下回った（図2）。

この背景には、25年11月下旬にスペインの野生イノシシでアフリカ豚熱（ASF）が確認されたこと^(注2)に伴い、各国が一部地域もしくは全土からのスペイン産豚肉の輸入を

停止したことが影響している。特に日本やフィリピンなど、スペイン産冷凍豚肉の主要輸入国が受け入れを停止したことで、同国産豚肉がEU域内市場へ流入し、需給が緩んだ影響が大きいとみられる。同月の豚枝肉卸売価格を国別に見ると、スペインの同価格は同1.33ユーロ（246円、同31.5%安）と大幅に下落している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。
 (注2) 詳しくは、海外情報「スペインでアフリカ豚熱発生を確認、野生イノシシが感染（スペイン）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004242.html)をご参照ください。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



25年12月の豚肉輸出量、前年同月比4.3%増

欧州委員会によると、2025年12月のEU域外向け豚肉輸出量（EU27カ国）は16万1598トン（前年同月比4.3%増）とやや増加した(表2)。これを主要輸出先別に見ると、中国向けはアンチダンピング関税^(注3)の影響により同20.7%減、英国向けは同2.7%減、

日本向けはスペインでのASFの確認を受けて同67.5%減少した。一方で、韓国向け（同94.2%増）、フィリピン向け（同2.6%増）、豪州向け（同74.1%増）は増加し、EU全体では前年同月を上回った。

韓国向けの増加は、スペイン産豚肉のうちASF発生地域以外からの輸入を認めていることによる。また、スペイン全土からの輸入を停止しているフィリピン向けはデンマーク産が、豪州向けはオランダ産がそれぞれ大幅に増加した。これらの国の輸出単価はいずれも前年同月を下回っており、生産量の増加やASFに伴う仕向け先の減少が背景にあるとみられる。

なお、同月のスペインのEU域内向け輸出は10万2503トン（同20.0%増）と、大幅に増加した。

(注3) 海外情報「EU産豚肉に対し中国がアンチダンピング関税賦課を開始（EU、中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004272.html)をご参照ください。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

(単位：トン)

国名	2024年12月	25年12月	前年同月比(増減率)	25年(1~12月)	
				前年同期比(増減率)	前年同期比(増減率)
中国	34,901	27,680	▲20.7%	434,079	▲10.6%
英国	25,308	24,634	▲2.7%	329,634	▲4.0%
日本	25,553	8,296	▲67.5%	231,863	▲21.7%
韓国	14,365	27,900	94.2%	225,475	16.2%
フィリピン	8,066	8,275	2.6%	116,004	▲8.1%
豪州	6,053	10,536	74.1%	77,834	10.3%
その他	40,762	54,277	33.2%	620,150	26.1%
合計	155,008	161,598	4.3%	2,035,039	1.4%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

(調査情報部)

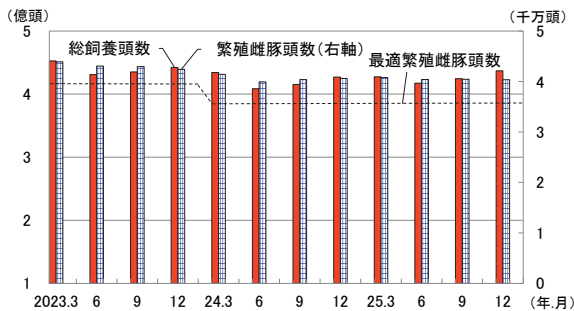
中国

25年の豚肉生産量は前年からやや増加、豚肉価格は前月比で上昇

25年12月末の繁殖雌豚頭数、前年同期比2.9%減

中国農業農村部によると、2025年12月末時点の繁殖雌豚頭数は3961万頭（前年同期比2.9%減）と前年同期をわずかに下回った（図1）。同部が最適な飼養水準（以下「最適水準」という）とする3900万頭を1.6%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

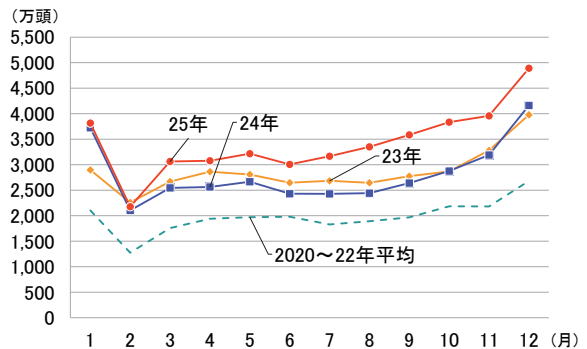
注1：四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

25年12月の豚と畜頭数、前年同月比17.5%増

2025年12月の豚と畜頭数は、4891万頭（前年同月比17.5%増）と大幅に増加した（図2）。同年の豚と畜頭数は、全ての月で前年同月を上回った結果、25年の豚肉生産量は5938万トン（前年比4.1%増）と前年比でやや増加し、高水準を維持した。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

26年1月の豚肉小売価格、前月比3.1%高

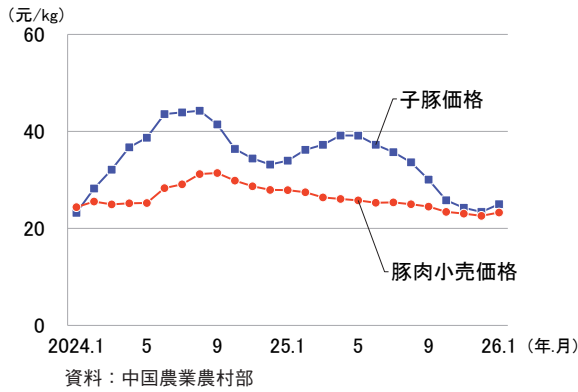
2026年1月の豚肉小売価格は、1キログラム当たり23.3元（536円：1元＝23.01円^{注1}、前月比3.1%高、前年同月比16.5%安）となった（図3）。この要因について、中国農業農村部が26年2月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年1月）」（以下「月報」という）によると、豚肉の需要期である春節（旧正月。26年は2月17日）に向け、卸売業者や食品加工業者、外食業者からの需要が堅調だったことが、春節前の豚肉価格を緩やかに上昇させたとしている。

また、豚肉生産にも影響する子豚価格は、同年1月に同25.0元（575円、前月比6.8%高、前年同月比26.4%安）となった。今後の価格について、月報は、26年の上半期は繁殖雌豚頭数の減少と子豚の供給量の縮小を背景に、大規模農場^{注2}が下半期の肥育豚価格の上昇を見込み、一部では子豚の調達を開始しており、こうした動きが子豚価格の上昇

を下支えするものとみられると報告している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。
 (注2) 一般的には、養豚では年間出荷頭数500頭以上を大規模としている。

図3 豚肉および子豚価格の推移



25年の豚肉輸入量、前年同期比8.1%減

2025年の豚肉輸入量は96万4558トン（前年比8.1%減）と、前年からかなりの程度減少した（表）。この要因について、現地報道によると、1）国内豚肉供給量が十分であり価格が安値で推移、2）カナダ産^(注3)や米国産への追加関税の措置、3）EU産へのアンチダンピング措置—により輸入豚肉の価格優位性が弱まったためとしている。こうした背景を受け、26年の豚肉輸入量も引き続き減少すると予測されており、今後の動向が注目される。

(注3) カナダ政府が2024年10月から中国製の電気自動車 (EV) などに関税を課したことへの対抗措置として、カナダ産豚肉に25%の追加関税を措置している。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
スペイン	37.8	29.0	28.4	▲2.2%
ブラジル	40.2	23.7	15.4	▲35.2%
英国	6.6	6.2	7.2	16.1%
オランダ	12.0	7.5	7.2	▲4.5%
チリ	8.4	6.5	6.8	5.3%
カナダ	13.2	7.6	6.7	▲12.3%
米国	12.2	7.0	5.6	▲20.4%
その他	23.5	17.5	19.3	10.2%
合計	154.1	105.0	96.5	▲8.1%

資料：「Global Trade Atlas」
 注：HSコードは0203。

(調査情報部)

鶏肉

米 国

26年の鶏肉生産量は対前年増、鶏肉輸出量は前年並みの見込み

26年1月の鶏肉生産量、前年同月比2.6%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年1月の鶏肉生産量は、生体重量は前年同月並みであるものの処理羽数が減少したことなどから、182万9000トン（前年同月比2.6%減）とわずかに減少した（表1、図1）。一方、25年の鶏肉生産量は生体重量、処理羽数がともに増加したことなどから2178万1000トン（前年比2.2%増）とわずかに増加した。26年の鶏肉生産量に

ついてUSDAは、2199万9000トン（前年比1.0%増）と予測している。

図1 鶏肉生産量の推移（月別）

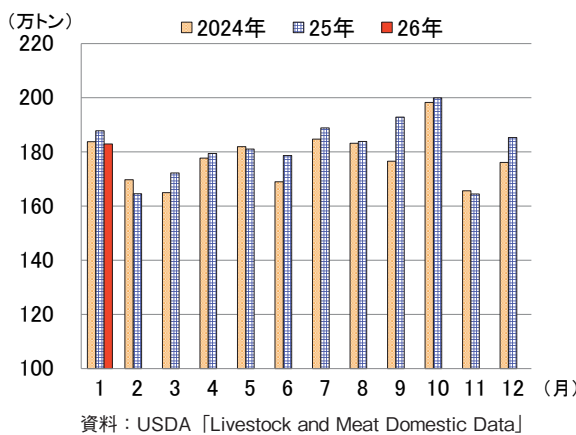


表1 鶏肉生産量の推移

項目	2025年1月	26年1月	前年同月比 (増減率)	25年	前年比 (増減率)
生産量 (万トン)	187.8	182.9	▲2.6%	2,178.1	2.2%
処理羽数 (百万羽)	824.1	799.1	▲3.0%	9,578.8	1.3%
生体重量 (キログラム/羽)	3.02	3.02	0.2%	3.00	0.8%

資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]

注1：連邦食肉検査済みのもの。

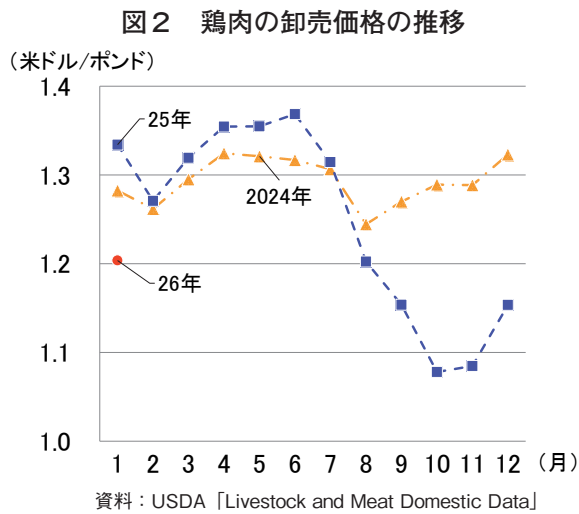
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

26年1月の鶏肉卸売価格、前年同月比9.8%安

USDA/ERSによると、2026年1月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.20米ドル（1キログラム当たり415円：1米ドル＝156.81円^(注)、前年同月比9.8%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。25年の下期以降、鶏肉生産量の増加に伴う供給

過多の状況などから、卸売価格は下降していたものの、10月を底値に上昇傾向にある。26年の卸売価格についてUSDAは、1.25米ドル（同432円、前年比0.2%増）と前年並みを予測している。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。



25年12月の鶏肉輸出量、前年同月比5.9%増

USDA/ERSによると、2025年12月の鶏肉輸出量は25万6436トン（前年同月比5.9%増）とやや増加した（表2）。輸出先別に見ると、輸出量の約5分の1を占めるメキシコ向けは、価格競争力のあるブラジル産

のシェアが拡大していることや国内生産量の増加などにより前年同月比5.9%減とやや減少したものの、フィリピンやアンゴラ向けは増加している。

25年1～12月の累計では、メキシコ、ベトナムなどへの輸出量が減少したものの、米国が最大の輸入先であり、鶏肉需要が堅調であった台湾向けや、鶏肉の輸入関税を一時的に引き下げ、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生国に対する貿易制限措置を緩和したフィリピン向けの輸出量が増加したことなどから、302万6509トン（前年同期比0.1%減）と前年同期並みとなった。

26年の輸出量についても、国際市場での競争状況や輸出量拡大の余地が限られていることなどから、302万5000トン（前年比0.0%減）と前年並みにとどまると予測している。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年12月	25年12月	25年		25年(1～12月)	前年同期比(増減率)
			前年同月比(増減率)	輸出割合		
メキシコ	58,740	55,257	▲5.9%	21.5%	682,129	▲6.6%
キューバ	20,619	22,098	7.2%	8.6%	231,736	▲7.9%
台湾	21,233	15,724	▲25.9%	6.1%	254,708	23.3%
グアテマラ	13,743	13,476	▲1.9%	5.3%	135,616	▲2.1%
フィリピン	7,833	12,772	63.1%	5.0%	212,458	30.2%
カナダ	11,655	10,646	▲8.7%	4.2%	173,563	10.7%
アンゴラ	6,725	10,009	48.8%	3.9%	104,218	▲11.4%
ベトナム	10,023	7,288	▲27.3%	2.8%	84,830	▲26.5%
中国	5,797	4,628	▲20.2%	1.8%	43,754	▲3.6%
その他	85,871	104,538	21.7%	40.8%	1,103,495	▲0.1%
合計	242,239	256,436	5.9%	100.0%	3,026,509	▲0.1%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部)

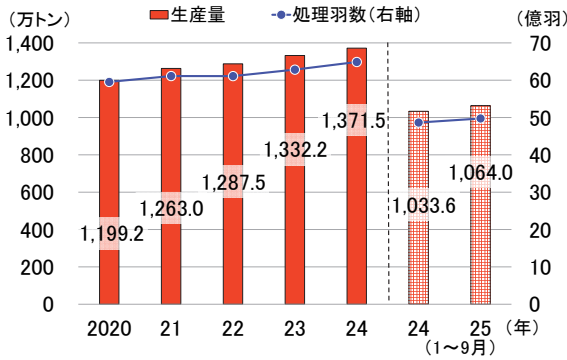
ブラジル

25年の鶏肉輸出量はHPAI発生ながら前年並み

25年1～9月の鶏肉生産量は前年同期比2.9%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年1～9月の鶏処理羽数は49億7509万羽（前年同期比2.2%増）、鶏肉生産量は1064万トン（同2.9%増）と、いずれも過去最大を記録した前年をわずかに上回るペースで推移している（図1）。

図1 鶏肉生産量および処理羽数の推移



資料：IBGE

25年の鶏肉輸出量は前年並み

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年の鶏肉輸出量は489万2083トン（前年比0.2%増）と前年並みとなった（表）。

25年5月15日にブラジルの家きん飼養施設で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の感染が確認されたことで、日本は対象地域からの家きん肉などの輸入停止措置を講じていたが、同年11月14日に解除した。しかし、同年12月23日に同国マットグロッソ州クイアバ市の家きん飼養施設において、HPAIの感染が確認されたことで、翌日の24日から日本は同市からの家きん肉などの輸入停止措置を講じている（注1）。なお、24年（HPAIが発生していない直近の年）の日本向け輸出量のうち同州産の割合はわずか3.3%であり、現段階での日本への影響は限定的と考えられる。また、サンパウロ大学農学部応用経済

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2024年			25年			前年比（増減率）		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量	輸出額	単価
アラブ首長国連邦	453,764	941,902	2.08	478,651	931,529	1.95	5.5%	▲1.1%	▲6.2%
日本	437,995	847,120	1.93	400,363	839,781	2.10	▲8.6%	▲0.9%	8.5%
サウジアラビア	370,642	818,455	2.21	397,119	942,190	2.37	7.1%	15.1%	7.4%
南アフリカ	324,079	186,357	0.58	334,923	230,020	0.69	3.3%	23.4%	19.4%
フィリピン	234,764	213,426	0.91	263,880	272,320	1.03	12.4%	27.6%	13.5%
中国	561,096	1,288,025	2.30	247,940	599,963	2.42	▲55.8%	▲53.4%	5.4%
メキシコ	211,649	533,549	2.52	240,678	585,968	2.43	13.7%	9.8%	▲3.4%
韓国	155,773	287,968	1.85	185,711	378,563	2.04	19.2%	31.5%	10.3%
その他	2,133,697	3,809,698	1.79	2,342,818	3,823,497	1.63	9.8%	0.4%	▲8.6%
合計	4,883,458	8,926,501	1.83	4,892,083	8,603,830	1.76	0.2%	▲3.6%	▲3.8%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

研究所（CEPEA）によると、5～7月が同国における渡り鳥の飛来時期であるため、最も警戒が必要であるという。

（注1）農林水産省プレスリリース
https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/251224_2.html

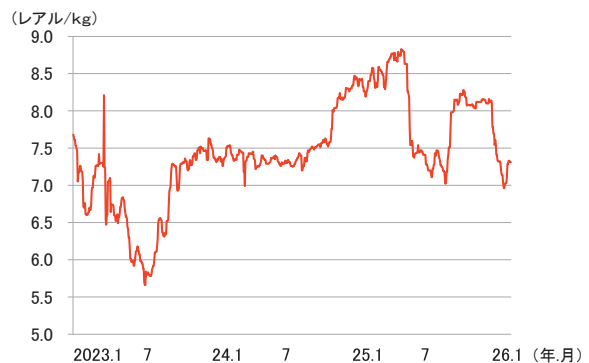
25年の鶏肉卸売価格は前年比7.5%高

CEPEAによると、直近（2026年2月23日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり7.31リアル（223円：1リアル＝30.45円^{（注2）}、前年同日比14.7%安）となった（図2）。これは、1月が需要の減少する時期に当たるためとしている。25年を通して卸売価格の推移を見ると、年初の数カ月間は堅調な内需や外需に支えられ上昇傾向で推移していたが、5月にHPAIの感染が確認されたことで輸出予定であった数量の一部が同国内の市場に振り向けられたため、3カ月にわたり下落が続い

た。その後は輸出先の制限が解除されるにつれ価格が回復し、最終的に年間平均価格は同8.07リアル（246円、前年比7.5%高）と、前年をかなりの程度上回った。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の日毎の推移



資料：CEPEA
注：名目価格。

（調査情報部）

中国

25年の鶏肉生産量は前年比3.1%増とやや増加

25年の家きん肉生産量、前年比6.7%増

中国国家统计局によると、2025年の家きん総出荷羽数は183億2000万羽（前年比5.6%増）と統計上、初めて180億羽を超え、家きん肉生産量は2837万トン（同6.7%増）と、いずれも前年を上回った。また、同年12月末の家きん飼養羽数は62億7000万羽（前年同期比3.2%減）となった。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の直近見通しによると、26年の中国の鶏肉生産量^{（注1）}は1670万トン（同3.1%増）と、前年からやや増加すると見込まれている（表1）。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」（<https://www.alic.go.jp/content/001177622.pdf>）P.102をご参照ください。

表1 中国の鶏肉需給

(単位：万トン)

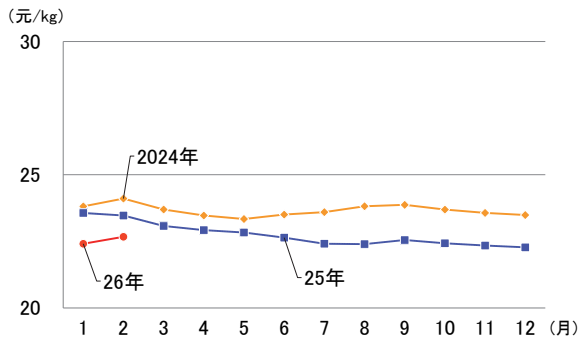
項目	2023年	24年	25年	26年 (予測)
生産量	1,480	1,535	1,620	1,670
輸入量	76	48	30	40
輸出量	55	77	105	120
国内消費量	1,500	1,506	1,545	1,590

資料：USDA/FAS
注：もみじ（鶏足）は含まない。

26年2月の鶏肉市場価格、前年同期比4.8%安

中国農業農村部によると、2026年2月第1週の鶏肉市場価格は1キログラム当たり22.7元（522円：1元＝23.01円^(注2)、前月同期比1.7%高、前年同期比4.8%安）と、前年同期をやや下回って推移した（図）。

図 鶏肉市場価格の推移



資料：中国農業農村部
注：26年2月の市場価格は第1週の値。

価格低迷の要因について、中国農業農村部が26年1月に公表した「農産物需給動向分析月報」の中で、25年の鶏肉生産量が安定基調であることに加え、豚肉価格が低位で推移していることから鶏肉への代替需要が弱まったためとしている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

25年の鶏肉輸入量、前年比36.0%減

2025年の冷凍鶏肉輸入量は59万1893トン（前年比36.0%減）と、前年を大幅に下回った（表2）。主要輸入先を見ると、ブラジル29.2万トン（同47.7%減）、ロシア14.4万トン（同12.3%増）、タイ9.5万トン（同

表2 輸入先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
ブラジル	65.1	55.3	67.9	55.8	29.2	▲47.7%
ロシア	11.8	12.7	12.7	12.8	14.4	12.3%
タイ	10.4	8.5	11.6	11.3	9.5	▲15.6%
米国	44.0	34.2	24.3	6.1	1.9	▲68.9%
その他	14.3	18.4	11.7	6.6	4.2	▲35.9%
合計	145.6	129.1	128.3	92.5	59.2	▲36.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

15.6%減)、米国1.9万トン(同68.9%減)といずれも減少した。25年のブラジルからの輸入量の減少要因として、同年5月のブラジルでの高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生により、中国政府が同国からの家きんおよび家きん肉類の輸入を停止したことが挙げられる。なお、同年10月31日付でブラジル産の輸入停止を解除したため、現地報道では26年の同国からの輸入は再び活性化している。

25年の鶏肉調製品輸出量、前年同期比15.7%増

2025年の鶏肉調製品の輸出量は41万16トン(前年比15.7%増)と前年をかなり大きく上回り、前年に引き続き高水準を維持している(表3)。

表3 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位:万トン)

国名	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
日本	18.0	19.3	17.2	18.5	20.1	8.7%
香港	3.7	3.8	3.8	4.2	4.6	9.3%
英国	0.8	1.8	2.5	3.8	5.0	33.1%
オランダ	1.4	1.8	2.0	3.1	3.7	18.3%
その他	3.0	3.7	4.4	5.8	7.5	30.2%
合計	27.0	30.5	30.0	35.4	41.0	15.7%

資料:「Global Trade Atlas」
注:HSコードは160232。

(調査情報部)

牛乳・乳製品

EU

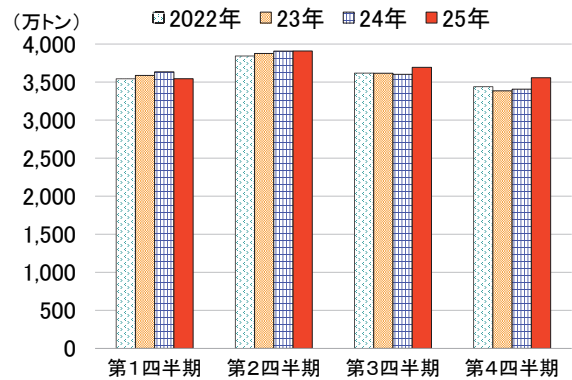
25年の生乳出荷量、前年を上回る

25年下半期の生乳出荷量は前年同期比3.5%増

欧州委員会によると、2025年12月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月比6.5%増の1212万トンと、前年同月をかなりの程度上回った。また、同年下半期（7～12月）の生乳出荷量を見ると、前年同期比3.5%増と前年同期をやや上回った（図1、表1）。下半期の増加には、1）飼料価格の低下と良質な牧草の生育に適した気象条件、2）24年に発生したブルータングによる受胎率低下に伴う出産時期の後ろ倒し、3）安定した乳牛飼養頭数といった要因が影響したとみられる。これらの結果、25年の生乳出荷量は前年比1.1%増と前年をわずかに上回った。

同委員会によれば、同年の乳固形分（乳脂肪分と無脂乳固形分の合計）は同1.9%増となり、生乳出荷量の増加率を上回った。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：万トン)

国名	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	25年	
				25年	前年比 (増減率)
ドイツ	253	281	10.8%	3,249	1.1%
フランス	196	210	7.3%	2,418	1.8%
オランダ	113	121	7.0%	1,392	1.9%
ポーランド	112	116	3.8%	1,379	2.0%
イタリア	102	111	8.8%	1,285	▲0.8%
アイルランド	28	27	▲3.0%	910	4.8%
その他	334	346	3.7%	4,068	▲0.3%
合計	1,137	1,212	6.5%	14,702	1.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

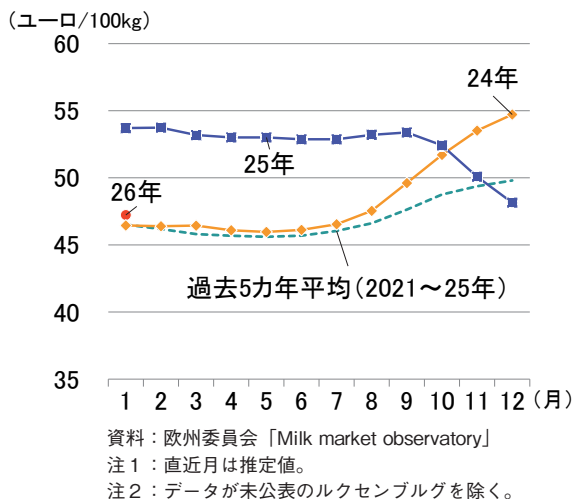
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

26年1月の生乳取引価格は前年同月比12.1%安

欧州委員会によると、2026年1月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり47.23ユーロ（1キログラム当たり88円：1ユーロ＝185.32円^{（注）}、前年同月比12.1%安）となり、3カ月連続で前年同月を下回った（図2）。現地報道では、生乳出荷量の増加が価格の下降圧力となっていると指摘されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移

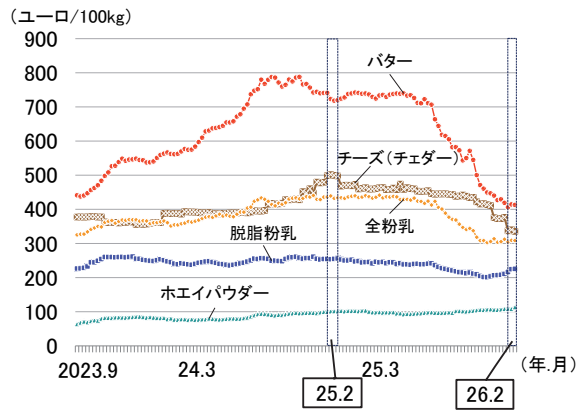


主要乳製品価格、前年同期を下回る

欧州委員会によると、2026年2月15日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり413ユーロ（1キログラム当たり765円、前年同期比42.5%安）、全粉乳が同309ユーロ（同573円、同28.6%安）、脱脂粉乳が同226ユーロ（同419円、同11.4%安）、チーズが同335ユーロ（同621円、同32.9%安）となり、

いずれも前年同期を下回った。一方、前月比では全粉乳が同1.1%高、脱脂粉乳が同8.3%高と前月を上回った（図3）。

図3 乳製品価格の推移



25年の主要乳製品輸出量、全粉乳を除き前年を上回る

欧州委員会によると、2025年のEU域外向け乳製品輸出量は、バターが前年比1.2%増、脱脂粉乳が同11.6%増、チーズが同2.6%増と、いずれも前年を上回った。一方、全粉乳は同15.2%減と、前年をかなり大きく下回った（表2）。

チーズの輸出増には、同年の生産量が前年比1.9%増となったことが背景にある。バターについては、アイルランド産が同7.0%増となり、同国の米国向け輸出量が同14.7%増とかなり大きく増加したことが、輸出増をけん引した。脱脂粉乳の生産量も同5.1%増となり、国際市場での価格競争力が高まったことで、東南アジアや中東向けの輸出量が増加した。全粉乳は同8.6%減と生産量が減少し、価格も比較的高水準で推移したため、特にニュージーランド産に対する価格競争力が低下し、輸出量の減少につながった。

表2 主な乳製品の輸出量の推移

(単位：千トン)

輸出先	バター			輸出先	脱脂粉乳		
	2024年	25年	前年比 (増減率)		24年	25年	前年比 (増減率)
米国	61	70	14.7%	アルジェリア	165	132	▲19.7%
英国	50	50	0.2%	エジプト	54	59	9.6%
中国	17	15	▲12.1%	サウジアラビア	33	54	64.5%
韓国	12	13	3.4%	インドネシア	29	51	76.1%
サウジアラビア	11	11	▲1.0%	フィリピン	38	42	7.9%
アラブ首長国連邦	6	7	2.2%	マレーシア	22	39	76.4%
その他	86	81	▲5.4%	その他	376	423	12.7%
合計	244	246	1.2%	合計	716	799	11.6%

輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳		
	24年	25年	前年比 (増減率)		24年	25年	前年比 (増減率)
英国	430	465	8.0%	オマーン	44	46	5.2%
米国	143	138	▲3.2%	英国	17	16	▲2.1%
日本	81	80	▲0.8%	クウェート	15	14	▲6.0%
スイス	75	75	▲0.3%	中国	15	10	▲32.7%
韓国	52	51	▲1.6%	ドミニカ共和国	8	8	▲0.4%
サウジアラビア	42	43	2.2%	セネガル	6	6	▲2.0%
その他	563	570	1.3%	その他	105	77	▲26.5%
合計	1,386	1,423	2.6%	合計	209	177	▲15.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

(調査情報部)

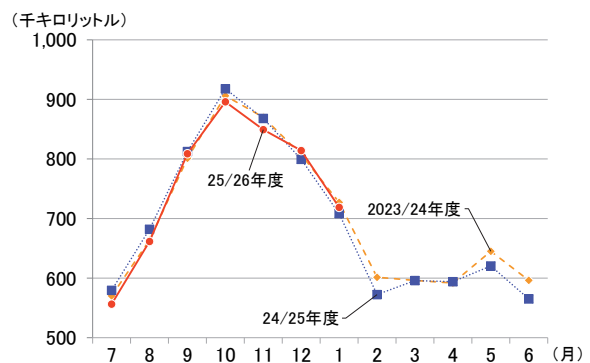
豪州

生乳生産量は2カ月連続で前年同月比増、輸出量は主要4品目で減少

26年1月の生乳生産量、前年同月比1.5%増

デリー・オーストラリア (DA) が2026年2月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年1月の生乳生産量は71万8781キロリットル (74万344トン相当、前年同月比1.5%増) と2カ月連続でわずかに増加した (図1)。

図1 月別生乳生産量の推移



資料：DA

注：年度は7月～翌6月。

この結果、25/26年度（7月～翌6月）の1月までの生乳生産量は、530万4658キロリットル（546万3798トン相当、前年同期比1.2%減）とわずかな減少となった。

26年（1～12月）の生乳生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、25年12月に公表した「Dairy and Products Annual」の中で、前年比0.6%増の855万トン（829万キロリットル相当）と予測している。この理由についてUSDA/FASは、1）乳価が引き続き高水準を維持しているため、生産者の生産拡大への意欲が高いこと、2）飼料用穀物（小麦および大麦）

の価格が比較的 low 水準で推移しているため、補助飼料の給与量が増え、1頭当たり生乳生産量の増加が見込まれることなどを挙げている。

25年12月の主要乳製品の輸出量はすべて減少

DAが2026年2月に公表した「Dairy Export Summary」によると、25年12月の主要乳製品4品目の輸出量はいずれも大きく減少した（表、図2）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高いインドネシアとマレーシア向けが大幅に

表 乳製品輸出量の推移

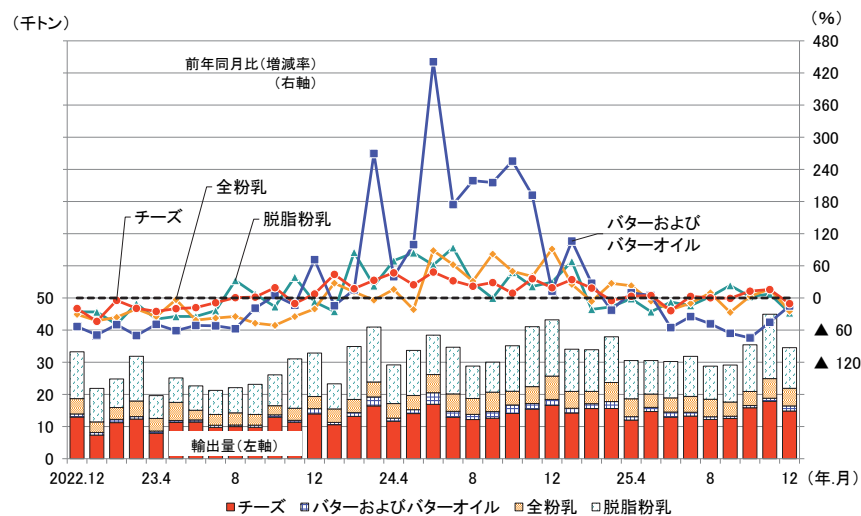
（単位：トン）

品目	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (7月～12月)	
				25/26年度 (7月～12月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	17,488	12,646	▲27.7%	81,472	▲3.3%
全粉乳	7,267	5,484	▲24.5%	30,748	▲7.4%
バターおよびバターオイル	1,838	1,565	▲14.8%	5,934	▲49.5%
チーズ	16,596	14,842	▲10.6%	86,489	3.3%

資料：DA

注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

増加したものの、中国やベトナムなどの他の東南アジア向けが減少したことを受け、前年同月比27.7%減と大幅に減少した。全粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国向けは大幅に増加したものの、アラブ首長国連邦やタイ、ベトナム向けが大幅に減少したことを受け、同24.5%減と大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、マレーシアやタイ、中国向けが好調だったものの、メキシコ、

米国、シンガポール向けが大幅に減少したことを受け、同14.8%減とかなり大きく減少した。また、チーズは、主要な輸出先である中国向けが大幅に増加したものの、最大の輸出先である日本向けが大幅に減少したことを受け、同10.6%減とかなりの程度減少した。

(調査情報部)

N Z

生乳生産が堅調な中、25/26年度の生産者支払乳価を引き上げ

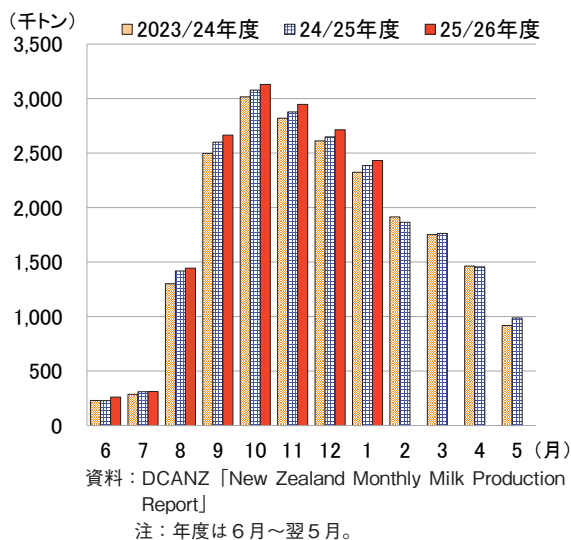
26年1月の生乳生産量、前年同月比2.0%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026年1月の生乳生産量は243万2000トン（前年同月比2.0%増）と、9カ月連続で増加した（図1）。また、2025/26年度（6月～翌5月）の1月までの生乳生産量も、1590万5000トン（前年比2.3%増）と前年度を上回って推移している。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、1）1月も雨天が続く牧草の生育や牛の暑熱ストレス軽減に寄与したこと、2）生産者支払乳価が高い水準であることや補助飼料の備えが十分であったことから、農家が牛群の維持管理をより容易に行えたことが増加につながったとしている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、牧草の生育状況は安定しており、良好な生産環境が持続すると予想している。

図1 生乳生産量の推移



26年1月の乳製品輸出量、チーズを除く主要3品目で減少

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年1月の乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目で前年同月を下回った（表、図2）。品目別に見ると、チーズは中国向けが増加した一方、脱脂粉乳は中国向け、全粉乳はインドネシア、バングラデシュ向け、バターおよびバターオイルは中国、豪州向けが、いずれも減少した。年度累計（25年6月～翌1月）では、脱脂粉乳を除く主要3品目が前年同期を上回った。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

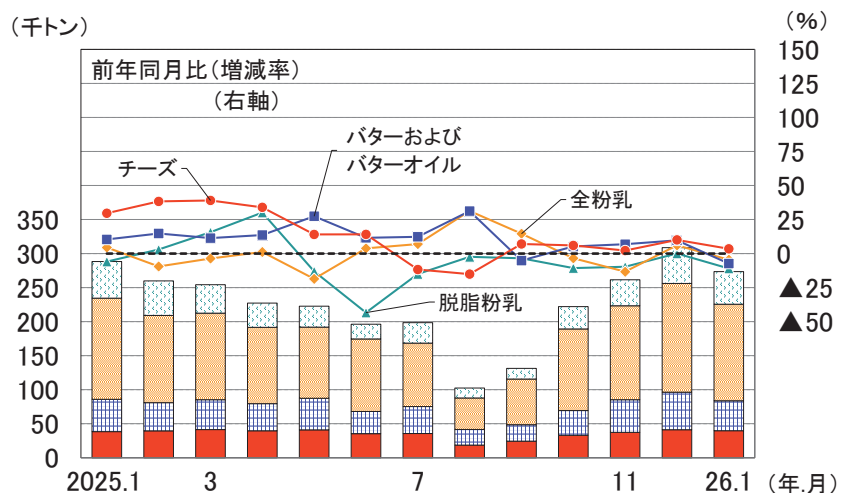
品目	2025年 1月	26年 1月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (6月～翌1月)	
				25/26年度 (6月～翌1月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	53,789	47,879	▲11.0%	231,541	▲8.0%
全粉乳	148,597	141,908	▲4.5%	766,196	0.3%
バターおよび バターオイル	47,512	44,021	▲7.3%	270,251	5.8%
チーズ	38,333	39,668	3.5%	229,603	0.6%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注：製品重量ベース。

26年2月17日のGDT平均取引価格、 チーズを除き前回を上回る

2026年2月17日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、チーズを除く主要3品目が前回開催時（26年2月3日）を上回った（図3）。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4028米ドル（63万1631円、1米ドル＝156.81円^(注2)、前年比5.2%高）とやや上昇した。NZなど主要乳製品生産地域での堅調な生産により供給が増加している

中、バターは堅調な需要が見られた。また、脱脂粉乳価格の上昇要因についてNZXは、米国での乳固形分ベースのチーズ仕向けの増加による脱脂粉乳在庫のひっ迫が影響したとみている。一方、チーズは中国が欧州産チーズに課していた輸入関税の一部を引き下げたことで、NZ産チーズとの競争力が低下し、前回開催時の価格を下回ったとみている。

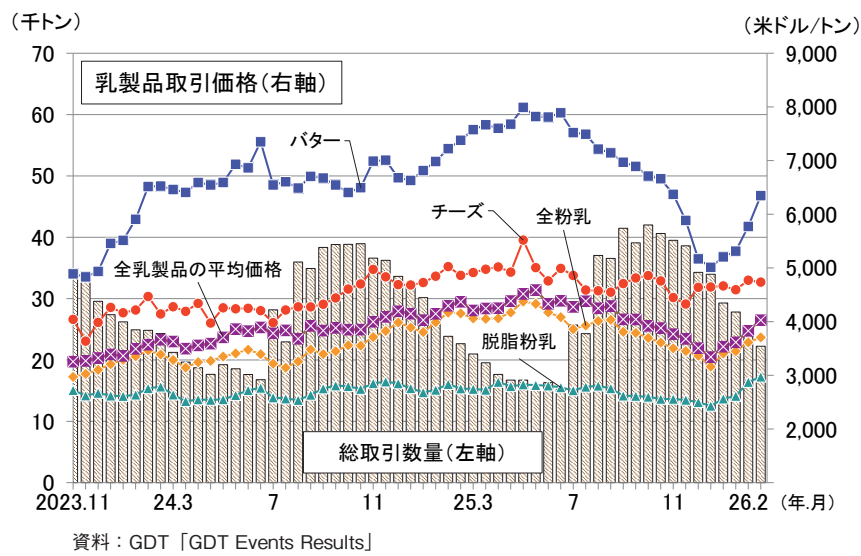
このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は26年2月20日、25/26年度（6月～翌5月）の生産者支払乳価について、生乳の

固形分^(注3) 1キログラム当たり平均0.5NZドル(48円:1NZドル=95.10円^(注2))引き上げ、同9.5NZドル(903円)にすると発表した。また、同乳価の予測範囲を同8.50~9.50NZドル(808~903円)から9.20~9.80NZドル(875~932円)に上方修正すると発表した。この理由について

同社のハレル最高経営責任者は、最近のGDT価格の上昇とフォンテラ社の堅調な販売契約実績を踏まえたものと説明している。

(注1) グローバルデイレイトレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
 (注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。
 (注3) 乳脂肪分および乳タンパク質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部)

飼料穀物

世界

25/26年度は消費量および輸出量の上方修正から期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2026年2月10日、2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億9591万トン（前年度比5.3%増）と前月から10万トン下方修正された。主要生産国ではEUが上方修正されたが、メキシコの下方修正が影響した。

輸入量は、世界全体で1億9208万トン（同3.2%増）と前月から186万トン上方修正された。主要生産国ではEUが下方修正されたが、イランやメキシコ、トルコなどの上方修正が反映された。

消費量は、世界全体で13億129万トン（同4.0%増）と前月から149万トン上方修正され、引き続き高水準を維持している。主要生産国ではEUの下方修正がウクライナの上方修正を上回ったが、メキシコなどの上方修正が反映された。

輸出量は、世界全体で2億655万トン（同10.4%増）と前月から144万トン上方修正された。主要生産国では米国が他国からの堅調な需要を背景に8382万トンと前月から254万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は、消費量および輸出量の上方修正から、2億8898万トン（同1.8%減）と前月から193万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2026年2月10日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2023/24 年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		前年度比 (増減率)	
			(1月予測)	(2月予測)		
米国	期首在庫	34.55	44.79	39.40	39.40	▲12.0%
	生産量	389.67	378.27	432.34	432.34	14.3%
	輸入量	0.72	0.55	0.64	0.64	16.4%
	消費量	322.87	311.60	334.53	334.53	7.4%
	輸出量	57.28	72.60	81.28	83.82	15.5%
	期末在庫	44.79	39.40	56.56	54.02	37.1%
	ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	10.58	10.58
生産量		119.00	136.00	131.00	131.00	▲3.7%
輸入量		1.72	1.75	1.60	1.60	▲8.6%
消費量		84.00	94.00	96.50	96.50	2.7%
輸出量		38.26	41.50	43.00	43.00	3.6%
期末在庫		8.33	10.58	3.68	3.68	▲65.2%
アルゼンチン		期首在庫	2.32	2.48	6.58	6.58
	生産量	51.60	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	15.20	16.40	16.70	16.70	1.8%
	輸出量	36.26	29.50	37.00	37.00	25.4%
	期末在庫	2.48	6.58	5.89	5.89	▲10.5%
	ウクライナ	期首在庫	3.00	0.54	0.84	0.84
生産量		32.50	26.80	29.00	29.00	8.2%
輸入量		0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
消費量		5.48	6.50	6.00	6.20	▲4.6%
輸出量		29.49	20.02	23.00	22.00	9.9%
期末在庫		0.54	0.84	0.85	1.65	96.4%
EU		期首在庫	8.02	7.29	6.21	6.21
	生産量	61.95	59.02	56.75	56.95	▲3.5%
	輸入量	19.81	18.76	20.00	19.50	3.9%
	消費量	78.10	76.10	75.30	75.00	▲1.4%
	輸出量	4.39	2.76	1.80	1.80	▲34.8%
	期末在庫	7.29	6.21	5.86	5.86	▲5.6%
	中国	期首在庫	206.02	211.19	191.93	191.93
生産量		288.84	294.92	301.24	301.24	2.1%
輸入量		23.33	1.82	8.00	8.00	339.6%
消費量		307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
輸出量		0.00	0.00	0.02	0.02	—
期末在庫		211.19	191.93	180.15	180.15	▲6.1%
世界計		期首在庫	305.36	315.26	294.70	294.35
	生産量	1231.14	1230.58	1296.01	1295.91	5.3%
	輸入量	197.62	186.14	190.22	192.08	3.2%
	消費量	1221.24	1251.50	1299.80	1301.29	4.0%
	輸出量	192.65	187.14	205.11	206.55	10.4%
	期末在庫	315.26	294.35	290.91	288.98	▲1.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部)

大豆生産量の増加から期末在庫も上方修正

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2026年2月10日、2025/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した (表)。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2818万トン (前年度比0.2%増) と前月から250万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルが全般に

表 主要国の大豆需給見通し (2026年2月10日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		前年度比 (増減率)
			(1月予測)	(2月予測)	
米国					
期首在庫	7.19	9.32	8.84	8.84	▲5.2%
生産量	113.27	119.05	115.99	115.99	▲2.6%
輸入量	0.57	0.79	0.54	0.54	▲31.6%
消費量	62.20	66.55	69.94	69.94	5.1%
輸出量	46.27	51.23	42.86	42.86	▲16.3%
期末在庫	9.32	8.84	9.52	9.52	7.7%
ブラジル					
期首在庫	36.80	29.72	36.81	36.81	23.9%
生産量	154.50	171.50	178.00	180.00	5.0%
輸入量	0.87	0.73	0.50	0.50	▲31.5%
消費量	54.41	58.00	60.00	61.00	5.2%
輸出量	104.19	103.14	114.00	114.00	10.5%
期末在庫	29.72	36.81	36.91	37.91	3.0%
アルゼンチン					
期首在庫	17.00	24.05	23.09	23.37	▲2.8%
生産量	48.21	51.11	48.50	48.50	▲5.1%
輸入量	7.79	6.32	7.70	7.50	18.7%
消費量	36.58	43.24	41.00	41.00	▲5.2%
輸出量	5.11	7.87	8.25	8.25	4.8%
期末在庫	24.05	23.37	22.84	22.92	▲1.9%
中国					
期首在庫	32.34	43.31	44.49	44.49	2.7%
生産量	20.84	20.65	20.90	20.90	1.2%
輸入量	112.00	108.00	112.00	112.00	3.7%
消費量	99.00	103.50	108.00	108.00	4.3%
輸出量	0.07	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	43.31	44.49	44.39	44.39	▲0.2%
世界計					
期首在庫	101.78	115.08	123.40	123.66	7.5%
生産量	396.35	427.15	425.68	428.18	0.2%
輸入量	178.42	179.49	186.04	185.99	3.6%
消費量	331.16	359.22	366.43	368.03	2.5%
輸出量	177.84	184.33	187.57	187.57	1.8%
期末在庫	115.08	123.66	124.41	125.51	1.5%

資料: USDA/WAOB 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1: 各国の穀物年度 米国: 9月~翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国: 10月~翌9月。

注2: 消費量は搾油仕向量である。

わたって天候に恵まれた中で、収穫面積と単収増から200万トン上方修正されたことなどが反映された。

輸入量は、世界全体で1億8599万トン（同3.6%増）と前月から5万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同3.7%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6803万トン（同2.5%増）と前月から160万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.3%増）と同じく据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8757万トン（同1.8%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国は、いずれも前月から据え置かれた。

期末在庫は、生産量の上方修正などを反映して1億2551万トン（同1.5%増）と前月から110万トン上方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離^{かいり}がある。米国政府が11月に発表した中国との貿易・経済協定によれば、中国は25年後半の2カ月間で少なくとも1200万トンの米国産大豆を購入するとされているが、現実的には後ろ倒しにある中で、今後、乖離の幅がどの程度縮小に向かうのか注目される。

（調査情報部）

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年2月10日、2025/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

米国内生産量は、170億2100万ブッシェル（4億3235万トン^{（注1）}、前年度比14.3%増）と前月から据え置かれ、前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

米国内消費量は、131億7000万ブッシェル（3億3453万トン、同7.4%増）と前年度からかなりの程度増加すると見込まれている。

輸出量は、33億ブッシェル（8382万トン、同15.5%増）と前月から上方修正され、前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

この結果、期末在庫は、21億2700万ブッシェル（5403万トン、同37.1%増）と前月から下方修正されたものの、前年度を大幅に上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.9%（同2.6ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.10米ドル（643円。1キログラム当たり25円：1米ドル＝156.81円^{（注2）}、同3.3%安）と前年度からやや下落すると見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2026年2月10日米国農務省公表）

区分	一単位一	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
				(1月予測)	(2月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.9	98.8	98.8	39.98 (百万ヘクタール)	8.7%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	83.0	91.3	91.3	36.95 (百万ヘクタール)	10.0%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	186.5	186.5	11.71 (トン/ヘクタール)	4.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,551	1,551	39.40 (百万トン)	▲12.0%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,892	17,021	17,021	432.35 (百万トン)	14.3%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	22	25	25	0.64 (百万トン)	13.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,677	18,597	18,597	472.38 (百万トン)	11.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,267	13,170	13,170	334.53 (百万トン)	7.4%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,831	5,454	6,200	6,200	157.49 (百万トン)	13.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,880	6,813	6,970	6,970	177.04 (百万トン)	2.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,489	5,436	5,600	5,600	142.25 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,255	2,858	3,200	3,300	83.82 (百万トン)	15.5%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,126	16,370	16,470	418.35 (百万トン)	8.9%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,551	2,227	2,127	54.03 (百万トン)	37.1%
期末在庫率	(%)	11.8	10.3	13.6	12.9		2.6ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.24	4.10	4.10	25.3 (円/kg)	▲3.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

(調査情報部)

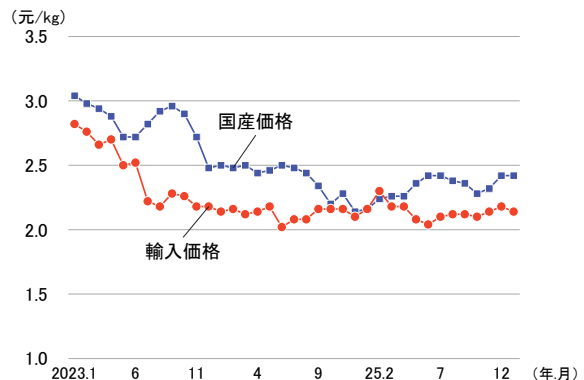
中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

26年1月の国産トウモロコシ価格、前月並み

中国農業農村部は2月24日、「農産物需給動向分析月報（2026年1月）」を公表した。この中で、26年1月の国産トウモロコシ価格は前月並みとされた（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、需要面ではコーンスターチ製造業の稼働率が高水準で推移し、飼料需要も安定している中で、取引企業の積極的な買付意欲や、末端需要者による在庫補充の動きが高まっている。このため、市場には

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

強気の見方が広がっていることで、供給面では生産者の売り惜しみ傾向につながっているとされる。この結果、国産トウモロコシ価格は堅調に推移し、短期的には安定基調の中、小幅な上昇が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる^{かんとう}広東省^{こうほ}黄埔港到着価格は、26年1月が1キログラム当たり2.14元(49円:1元=23.01円^(注)、前月比1.8%安)とわずかに下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格(東北部産の同港到着価格)も同2.42元(56円、前月同)となり、国産価格が横ばいで推移する中で輸入価格が下落したことから、輸入と国産の価格差は拡大した。

26年1月の国産大豆価格、前月からやや上昇

2026年1月の国産大豆価格は、前月からやや上昇とされた(図2)。同月の大豆需給を見ると、継続した国家備蓄在庫用の買い入れなどが同価格を下支えしていることに加え、高たんぱく質大豆の在庫ひっ迫や旧正月を控え備蓄需要期が重なったことが、国産大豆価格を押し上げたとされる。今後の国産大豆価格について、短期的には引き続き安定的な推移が見込まれている。

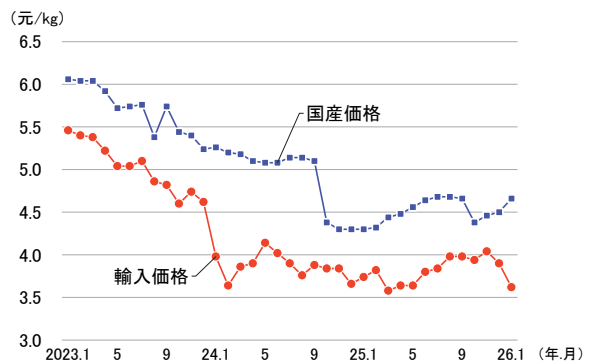
各地の価格動向を見ると、主産地である^{こくりゅうこう}黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、26年1月が1キログラム当たり4.16元(96円、前年同月比10.1%高)と前年同月をかなりの程度上回った。また、大豆の国内

指標価格の一つとなる^{さんとう}山東省の国産大豆価格も、同4.66元(107円、同8.4%高)とかなりの程度上昇した。同月の輸入大豆価格は同3.62元(83円、前月比7.2%安)とかなりの程度下落したことで、輸入と国産の価格差は拡大した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、国際相場の変動を受けながらも前年に比べて高い水準にある。25年の輸入量は1億1182万トン(前年比6.5%増)とかなりの程度増加した。また、輸入額は同4.7%減の503億7700万米ドル(7兆8996億円:1米ドル=156.81円^(注))と報告されている。主な輸入先はブラジル(総輸入量の73.6%)、米国(同15.0%)、アルゼンチン(同7.1%)であり、ブラジルからの輸入量が増加している。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年2月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格(課税後)。

(調査情報部)